

	第 3 回石川町振興計画審議会
	日時：平成 19 年 12 月 18 日
	時間：午後 7 時から
	場所：石川町役場第一会議室
	1 開会 瀬谷企画調整課長
	2 会長あいさつ 西川会長
	本日は、若者まちづくり委員会の提言書と女性まちづくり委員会の提言書を見て感じたことを申し上げます。厳しい町の状況をよく認識しており、既存の自然を有効活用しまちづくりを進めることと感じました。ハード事業よりもソフト事業を重視しており、何よりも嬉しかったのはまちづくりを行政にお願いするのではなくて、自分自身の問題として考えて提言をされておりました。この審議会も女性・若者の委員会に負けないような議論を進めていかなければいけないだろうと感じました。
	3 説明事項 座長：西川会長
	若者まちづくり委員会・女性まちづくり委員会からの提言について 説明：添田係長 第 5 次総合計画について 説明：瀬谷課長
	質疑：
山口委員	さくらというものを使ってこれらの委員会の提言に応えられるような体制を作られたらよいのではないのでしょうか。町をあげてさくらにちなんだ取り組みをしたら良いと思います。さくらのオーナー制度やなど色々できると思います。
深谷委員	若者、女性の提言について意見を戦わせる前に地域循環型をベースにこのような提言を考えたのか疑問です。
西川会長	若者まちづくり委員会の提言の文中に循環の概念を盛り込んであるということが書かれています。
深谷委員	どの程度、理解して提言しているのか疑わしいのですが。
添田係長	確かに地域循環型社会のイメージというものは十分に浸透はされていないと思いますが、女性、若者の委員会の全体での最初の会議のときに、今回の第 5 次総合計画についての基本テーマは「協働で築く地域循環型社会」ということでそれぞれの委員の皆さんには説明を行っております。
深谷委員	素晴らしい提案だと思うのですが、実際のイメージの中で、具現化されていく中で、溶け合っていくのでしょうか。 わからない箇所が一箇所あります。 農と命の循環のなかで美しくなつかしい田舎の景観（風景）の再現。これは具体的にはどういうことを言っているのか。

瀬谷課長	イメージ作りの段階で、固まっているものでないのですけれども、農と命の循環という
	意味を言い換えれば循環型の農林業を進めようという考え方があります。美しくなつかし
	い田舎の景観（風景）というのは広く言えば山も川も含めてということになると思うので
	すが、杉の問題や荒廃している農用地の問題ですとか、このような問題を何とか循環型の
	農林業というような政策を進めていく中で、ひとつでもふたつでも解決できないかという
	願いがこの言葉には込めてあります。これらの施策の結果、美しくなつかしい風景が出来
	上がってくるのではないかと考えております。
深谷委員	私たちが昔、懐かしんだ景観ができるのかと考えた場合に、不可能ですね。なぜかとい
	うと、今の農村の後継者がおりますけれども、この後継者が農業をやっている人はほとん
	どお年寄り。そうすると次代を担う若者たちが農離れをしているときに果たしてこういう
	ことが出来るのか。言葉としては、良いんだけど、実際に考えていった場合、できる
	はずがないんですね。
瀬谷課長	美しい景観とは別な視点から農業の捉え方をさせていただくと、人口の問題や限界集落
	の問題について、いずれにしても若者の定着を図らない限り人口は減りつづけます。若者
	が定着するにはどうしたらよいのかという中で、ひとつは雇用場を確保することで、企
	業誘致や既存の企業の支援をどうするのか、もうひとつは各地域に若者がどのような形で
	定着できるのか、ということを考えれば、山とか農地を活かした中で収入を得られるよう
	な展開を図らなければ若者は農村部には定着してこないわけで、そこをどうするのかとい
	うのが第5次総合計画における議論のひとつにもなるものと思っています。そこでこの議
	論をどのように進めていくのかが審議会でのポイントになるものと思います。
斎藤委員	若者たちがこの提言書のような考えを持っているということに安心しました。農業で生
	活できるかどうかということで職業とすることには大変だと思いますが、自分たちが後継者
	や自分の子孫にどういう形かでも農家をやっていける形を何とか模索して残していきたい
	という気持ちがあります。都会と石川町とを差別化するもの、都会にないもので自然環境
	があると思います。「鮫川村には素晴らしい暗闇がある」「暗闇の音がある」という話を
	聞きました。他にはないものがあるということで、これから更に議論をしていくと一歩踏
	み出せるということになると思います。
西川会長	私も「美しくなつかしい田舎」という表現の「なつかしい」という言葉は感傷的に捉え
	てしまいます。果たして今の若い方々にとって「なつかしい」という言葉で理解していた
	だけなのかということを思いました。「美しい田舎の創造」とか新しい農村をつくるという
	ような表現がいいのではないのでしょうか。田舎というのは、実は人間関係が意外と複雑で
	ありまして、嫌なところもたくさんありますが、新しい農村のコミュニティを築く方向が
	よいのではないのでしょうか。懐かしいという言葉が少し私には引っかかる言葉と思います。
山口委員	循環型社会というのは、今の若者に農業の良さというものを積極的に進めて、若者に農
	業をする意義を伝えることが大切であると思います。きれいな自然というのは、我々の祖

	先がこつこつと畑を耕し、田んぼを作ったりして人の手が加えられて出来上がった景観な
	のです。地元に農業が無くなればこの景観もなくなってしまいます。我々の自然の景観と
	いうものは我々の先輩達が築き上げていったものが今の自然の景観なんだということを石
	川町の若者に対しても説明することが「なつかしい」という意味合いでもあると思います。
添田好史委員	（持参の資料の説明）
鈴木委員	石尊山から石川中学校にかけての道も杉の葉っぱで歩ける状態ではありません。今回、
	子ども達が進めたエコ・イルミも杉や雑木の葉っぱ陰でとても見えにくい状態になってい
	ます。折角、若い方々が計画して子ども達と一緒に実験して設置したところですが、少し
	残念な結果だなと思っています。以前にまちづくり会社でも話したのですが、放置地区が
	あるということで、どこにどのように手を入れたらよいのか、どのように伐採すれば良い
	のか、どのように利用していけばよいのかというのがわからない状態です。このような事
	柄についても町民みんなで考えていかなければならない問題であり、良い自然というもの
	が形成されていかないものだと思います。
	若者や女性のまちづくり委員会からの提言にもあるように、さくらは大変素晴らしいも
	のであると思いますが、観光の点で考えた時に期間が非常に短いものだと考えます。四季
	を通じて観光に訪れてもらえるような、都会とも交流出来る様な美しいまちを作っていく
	のであれば、空いている土地を利用して、敢えてみんなで計画して、四季をつくり、年間
	を通じて色々な場所を周れるようなものを考えていかなくてはいけないと思います。
	4.意見交換（質疑応答を含む）
	・町長のまちづくりに対する思い
町 長	審議会委員の皆様、本日はお集まりいただきましてありがとうございます。
	私が町長になりまして1年3ヶ月が経ちました。皆さんが仰られたようなことも含めて、
	これから石川町がこれくらいになって欲しいというようなことをお話し上げたいと思っ
	ます。
	東京で地方出身の方に対して、「あなたの出身の町で自慢できるものはなんですか？」
	という質問をしたときになかなか答えてもらえません。自分の生まれ育った場所の子ども
	達、例えば石川の子ども達が東京に就職しようとした場合の面接のときに「福島県の石川
	町というのはこういうところですよ」と言って自慢できるようなものを、私は石川町の子
	供たちに植え付けてあげたいと思っています。これが人づくりの基本ではないかと思っ
	ています。このようなことから町長なって直ぐに教育委員会を通して石川町を自慢できる、
	子ども達にも良くわかるような副読本を作るように指示をさせていただきました。子ども
	達が良くわかるように各地区ごとに写真を入れたものを用いて壁に役立てて欲しいという
	指示です。そうすることによって生まれ故郷に愛着を感じるようになり、そして堂々と話
	が出来る子どもができるというように考えております。私はカウンセラーの関係をやって
	いたこともありまして、企業に就職後の青森出身の子どもの相談を受けたときに「君の出
	身の町はどんなまちですか？」と訊ねたときに説明が出来ませんでした。このようなこと
	もありまして、石川の子ども達はどこに行っても自分のふるさとを自慢できる子どもとい
	うのが、子どもの教育に対する一番の基本だと考えています。この副読本はほぼ中身が出

	来上がりまして来年の春から小中学校の教育の中で取り組んでいただこうということにな
	っております。その中には神社仏閣や歴史に残る史実などを掲載して、ほぼ出来上がって
	います。原稿の校正をして各学校に配布する予定になっています。私が町長になって一番
	最初に取り組んだものが形になろうとしているものであると思います。
	人口減少の問題というのがありますが、以前は私も皆さんと同じ立場で議論をさせてい
	ただいた時期がありますが、その当時は右肩上がりでも何でも出来た時期でありました。当
	時、土木事業でも年間７億から８億の発注ができた時代でした。今では３千万しか発注で
	きない状況です。これは地方交付税が１０億円ほど減少したことに加えて、１５億７千万
	の公債費もあり、更には老人保健や介護保険などの伸びが著しいということが挙げられま
	す。このようなことが石川町だけが置かれている状況なのかというと、隣接する町村もは
	じめ多くの自治体がこのような問題に直面している状況にあります。確かに今の石川町は、
	全国でも公債比率の指標による順位は下から１１０位台とあまり良い状況ではありません
	が、このことをまず再生していかないと、企業誘致にしても財政が健全かどうかで判断さ
	れてしまう現状にあります。全国の自治体の財政状況は今では色々な情報の中ですぐに調
	べることが出来るので、企業誘致をするにあたって立地の良さや様々な好条件を説明して
	も、財政状況の問題で先に進まないということもあります。大阪に行ったときにも、話は
	理解していただきましたが、町の財政の方が大変ではないのかと言いつ返されてしまいます。
	当然ではありますが、隠し事の出来ない世の中ですから、まずは財政状況の見通しをきち
	んとし、財政状況を立て直しておかないとだめだということで、この財政問題についてはか
	なり強く指示をしまして、大変なことではありますけれども単年度ベースで３年度には福
	島県内の中間位まで持っていきたいと考えています。財政再建をしないことには、ほかの
	ことには手をつけることが出来ないというのが、今の私の感じているところです。
	それでも石川町が何もしないというわけにはいきませんので、これから益々の高齢化を
	迎えるということもありますし、商店街の活性化などについても、町民の皆さんに夢と希
	望を持ってもらうような話をしていかなくはなりません。石川町はダメだといってばか
	りではなくて、石川町の良いところを伸ばしていこうという事で、時代がどんどん変わっ
	ていく世の中ですので第４次総合計画を前倒して、計画を作り直して、この新しい計画
	に沿ったもので行こうというのが今度の第５次総合計画ということになります。
	今までの総合計画というのは役所で作って実施をしてきました。今度の計画はこれまで
	のようなものではなくて町民の皆さんの意見を取り入れていきながらいっしょにやろうと
	いう点が、これまでと違う部分です。自分たちで作った物を自分たちで実行していく訳で
	すから、非常に親しみやすいものになると思っています。これまでの計画は町民の皆さん
	にとって他人事であったと思います。計画は立派でも実行性に乏しい計画であったのでは
	ないでしょうか。これまでのような計画ではなくて、魂の入った計画を作りましようとい
	うのが第５次総合計画ということになります。こうして審議会の皆さんをはじめ多くの皆
	さんの意見を聞きながら計画をまとめ、石川町の柱にしたいと思っています。
	先日、若者や女性の皆さんと意見を交換したり、提言をいただいた中で、私はこの提言
	の内容には涙が出るほど嬉しかったのです。それは、それぞれの提言には町に要望するだ
	けの意見はひとつも織り込まれていませんでした。自分たちが住むところは自分たちで作
	るんだという提言だったと思います。これまでそれぞれの区長さんが中心になって町に
	対しての要望書の提出が主なものだったのではないかと思います。町に何をしてもらうか

	ということが要望の主たる内容だったのではないかと思います。このような形が今までの
	方法だったのです。財政に余裕がある時には町民の皆さんの要望に応えることが出来たで
	しょうが、これからは今までのようにはいかない時代になっています。少ない費用を有効
	に使わなくてはなりません。そのためには町民の皆さんの協力というのが不可欠になって
	くることになります。現在、地域整備事業の中で地元の要望に対して資材を提供して、作
	業や施工を地元の皆さんの協力で行うという方法で道路補修などを行うということが浸透
	してまいりました。これは、このような形での実施によって、早く事業が実施、完了して
	いるということによって地元の皆さん方にも大変に好感を持っていただいております。ま
	た、地元の皆さんについても作業に関わっていただくことによって、出来上がったものに
	ついて誇りと愛着を持っていただいております。このような方法や成果の形がこれからの
	方向性であるというのが、私の考え方であります。このようなことを町民の皆さんに絶え
	ず訴えながら浸透を図っていきたいと考えています。今後、１～２年は多少の批判を受け
	ても、自分たちの地域は自分たちで作り上げるという考えかたを推し進めて参りたいと考
	えています。
	今回、皆様方をお願いしたいのは、皆さん本気になって取り組んでいただいている提言
	や提案が第５次総合計画に取り入れることが出来るかもしれません。そういう意識の元に
	取り組んでいただき、更には計画実行にあたっても率先して行動や実行に携わっていただ
	きたいと思っています。
	先程、自然に関するお話もございましたが、石川町の良さというのは、自分の足で歩い
	てみることによってはじめて良さがわかると思います。実践とは、現地を歩きながらだか
	ら進めていかなければならないと思います。歩きながら情報収集を行い、ものづくりを進
	めていかなければならないと思います。職員もっと世の中を知らなければならぬと思
	います。そういう職員づくり進め、新年度に入りましたら職員にはもっと全国を知るため
	の研修をさせたいと思っています。これはレポートや報告で縛るようなものではない
	と思っています。このような経験が石川町を再生するための大きな力になっていくものと
	考えています。単に机上における議論ばかりしていても始まるものではありません。議論
	だけでは結果が出るものでもありません。私は実践を主にした歩きながらものを考えてい
	く、歩きながら計画を練り直していくような形を進めていくことが必要だと思います。こ
	れは企業でも同じ事だと思います。計画だけが優先されるべきものでもありませんし、立
	派な計画でも実現できそうに無い場合には変更するのが当たり前だと思います。企業でも
	商売をする中で営業するということは、まずは歩くことです。歩くことによって人づてに
	多くの情報を得ることによりアイディアに繋がるものであると思っています。こういうこ
	とを活かし、これがものづくりの基本なんだということだと思っています。このようなこ
	とを踏まえて石川町を再生できたなら、そんなに長い期間をかけなくても良い方向に進む
	ことが出来るのではないのでしょうか。財政面でも約３年ほどで状況は良くなると見込んで
	います。
	今出ダムについては地域の方々に大変なご迷惑をかけておりますし、火葬場に関しても
	大変な課題を抱えております。これまでの対応の中で、あれをやる、これをやるというこ
	とで進めてきた経過もあるようです。地元の協会の皆さん方からも今までの町長がやる
	といってくれたのだから、加納さんができないというのは困るなどと怒られていますが、
	判断として出来るときと出来ないときがある訳ですし、出来ないものは出来ない、ダメな

	ものはダメだということもあるということだと思っています。ここで多くの皆さんの様々
	な意見をすべて取り入れたら、石川町の財政ではとても実現できるものではありませんし、
	財政を再建することも、このことによって事実上不可能になってしまいます。私は皆さん
	から怒鳴られても、自分は今こうすべきだということを書いて交渉を行っております。
	今日の皆さんのお話を聞きまして、真剣に取り組んでいただく姿勢に心から感謝を申し
	上げたいと思います。私も「加納に町長やらせて良かった」と言われるような実績を残し
	たい、というような思いで町政運営に取り組んでおります。
	人口に関しても減少を指をくわえて待っているだけではいけませんので、人口を増加さ
	せるような、あるいは現状維持させるためには企業誘致が大きな要素であろうと考えてい
	ます。多くの企業を訪問させていただきましたが、中でも２～３社程度に好意的なお話を
	いただくことが出来るようになってきました。企業誘致に関わる中で、空港や高速道路に
	近接する立地条件などを色々とお話させていただいています。中には郡山より石川のよう
	な立地条件のほうが好ましいとおっしゃられた社長さんもおっしゃいました。このよう
	な方々に先日の若者まちづくり委員会の皆さんから提言いただいた提言書のコピーをお渡
	しましたところ、石川町の若者について理解していただくことが出来たと思っています。
	ある経営者とのお話では、会社を継ぐ息子達がついてきてくれば石川町に進出するとい
	うことも考えているというお話をさせていただきました。私はもし石川町に進出してきてく
	れるならば、「私が責任を持って社員になる人を紹介しますよ」とお話をしています。こ
	れとあわせて、「石川町の若者たちはこのような提言をしてくれて、自分の町をもっと良
	くしたいと考えている若者がたくさんいるのですよ」と、話をしました。東京だって若者
	はたくさんいるでしょうが、純粋に自分の町を愛している若者がどれだけいるのでしょ
	うか。「石川町には自分の町を良くしたいと思っている若者がたくさんいるのですよ」と、
	説明しました。「提言書は提言であって、要求なんかひとつも書いていませんよ」という
	ことを話してきました。「石川町にはこういう素晴らしい若者がたくさん住む町に是非来
	て欲しい」という話を伝えてきました。この地は国の首都機能移転の候補地にも選ばれ、
	今でもまだ継続しています。耐震性に優れた地域であり、白河や郡山に比べて雪も少ない、
	暑くもないというような気候的にも恵まれた条件を有しています。石川町の町民が良いと
	ころ、素晴らしいところに住んでいるんだという誇りを持つことにならないと、企業も進
	出してきてはくれないでしょう。自分たちが自分の町をダメだダメだと思っているとどん
	どん悪くなっていくことになってしまうでしょう。そうではなくて、石川町はこれだけ良
	いところがあるんだと、もっと誇りを持って胸を張れる気持ちの町民性と、町もこれを進
	めるための方向性を示すことによって、若者はもっとこの町に誇りと愛着を持って生活し
	ていけるのではないかと思います。このような人が増えていけば、町の再生は然程の
	時間が掛かるものではないと思います。このように若者たちの提言書については、充分に
	くみ上げて行きたいと考えています。
	町の商店街の空洞化については、高齢者の皆さんが作った野菜等の販売に活用し、高齢
	者の方がたの生きがいを生み、医療費の削減や商店街への購買者の流入にも繋がるのでは
	ないかと思っています。このようなことを通して、石川町が素晴らしい自治体に変われる
	ようにしていきたい。そのためには、今日のような、皆さん方の提言や意見が参考に成り
	得るものですし、取り入れていくことが大事なことを考えています。
	私の思いを、是非、お含みいただき、一緒に石川町を盛り上げていっていただきたいと

	思います。共に元気の出る町にしていきたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。
西川委員長	町長には大変熱く語っていただきました。皆さんの忌憚のないご意見をお願い致します。
深谷委員	町長はまちづくりの中で農業をどういう位置付けにするのか。というのは、後継者がいない。企業誘致も大事だけれど、まず後継者だという話です。そのときは結婚適齢期になっても配偶者が見つからない、そういう悩みを抱えているのですね。そうしますと、実際に考えて思うのは、自分の代で終わりだよ。という悲観的な考えを持っているのですね。これが今、まちづくりの中でこういう問題をどう変えていくのかというのを聞きたい。
	それじゃね。確かに町の活性化も大事なんですけれども、例えばね、私たちがやっぱり夕飯を外食にしましょう、ということを考えた時に、ほとんどの人は町には来ません。町に来てみんなドアが閉まっていますね。すると私なんかは白河というようなところに行くんですね。そうすると結果的に地元の中でそういう場が欲しいんだけど、実際にはやってないんです。とにかくやっぱりお金を外でみんな使ってくるという現実があるんですね。その辺がやっぱりまちづくり自体に人を受け入れるような体制づくりをね。やっぱりね、考えていく以外ないな、というように思っている。
添田一文委員	私は農業後継者なんですけれども、17年ほど農業をやっています。米作りを1.8haやっ ていまして良い経験をしたと思っています。本当に1.8haを目いっぱい母親と二人で作っ ているのですが、米の価格が下がってしまい儲けが出ないという状況で、本当にこれはどう しょうもない状態です。米を作るにも儲けが出ず、収入が上がらないので生活できないと いう実感です。今後は1.8haのうち60aを地主に返すという方向で考えています。私のとこ ろでは牛を4頭飼っており、産業振興課を通してお金を借りて牛を導入して4頭での経営 をやってみたのですが、牛の儲けをもってしても生活していくのには本当にぎりぎりのと ころです。もっと効率の良い牛舎でやっていかないと生活できないという状況です。仮に 牛を増やしたとしても労力も足りず、限界に近いという状況になっています。
	農外収入を得る方法に持っていけないと農業も出来ない。専業では資金を導入して大型 化していかなければならない。資金が無ければ借金という形にもなるので、そういうこと をして今の若い人が農業に取り組めないというのを実感しています。会社などに勤めて1 ヶ月働いてサラリーを貰ったほうが楽に生活できると思います。こういうのが農村の若者 の立場の現状であると思っています。私の場合、田んぼは荒らしたくないと思っています ので続けていくつもりですが、経営を縮小して農外収入を得ないと生きていけない。兼業 農家にならないと生きていけないというのが今の現状であるというように感じています。
相楽委員	先程の深谷委員から地元で店が閉まってしまっていて食べにもいけないとの事でした が、結構、地元のお店も夕方でも開いていますので是非、ご利用いただきたいと思います。 そして目に付いた点や不満な点などがありましたら、私どもの方に提言いただきまして、 ご連絡いただきたいと思います。
	今、福祉ネットワークのほうで空き店舗の活用を考えながら進めております。商工会の ほうでも色々と考えていますが、商工会では残念ながら資金が無いので空き店舗を借り上

	げて貸すという段階までは出来ません。
	先程、添田好史委員から話がありましたブランド化というのがありましたが、できれば
	町のほうでプロジェクトを作って特産品のブランド化を進めてみてはいかがでしょうかと思います。
	これだけ財政が逼迫しておりますから、地産地消ではなくて、外貨を稼がないことには
	何にも町の活性化にはならないと思うので、そういう意味では全国的にPRできるような特
	産品のブランド化を町のほうで開発していただきたいと思います。
渡辺副委員長	先程の町長のお話には大変感銘いたしました。企業も地域も夢に対する首長の熱い思い
	は処方箋だと思います。町長の話にはすごく手ごたえを感じましたし、その思いを継続し
	て強力に押し進めていけば、町は絶対に良くなると思いますし、やっぱり町再生の切り札
	であろうと改めて実感した次第です。その熱い思いで頑張っていただきたいなと思います。
	また、町政の進め方としても熱い思いの中で、それぞれの政策を具体化し盛り込んで行く
	ためにどのように組み上げていくのかという進め方、方向性も正にお聞きしたとおりだと
	思いますし、そういった意味でのこの審議会だと思うんです。今まではどちらかという
	諮問機関としてももう既に出来上がっているものを形として審議するのが今までの形だった
	と思うんです。今までずっとそうだったんです。ですけども町長のお話を聞いて、本当に
	実行できるもの盛り込んでを組み上げていくんだっていうものを強く感じました。私とし
	てもやり方として強く重なり、共鳴する部分がものすごくありました。私も一旅館の、ひ
	とつの企業の経営者としてこのような思い、夢を持って時間をかけて中長期に渡って、あ
	きらめず積上げてきました。それで今があると思っています。このように町長もやはり
	東洋シャフトをあそこまでにしてきた手法があり、考え方、ものの進め方を町政に活かし
	ていくということで、町長が前から話をしていた通りだし、間違いなくこのようなことを
	継続していけば本当に出来るのだなというのを実感いたしました。
	ボランティアという考え方がありますがボランティアも大切ですが、事業として金を稼
	ぐということは、お金を通して事業の評価を受けるということです。事業を継続していく
	ためにはお金を稼げるものをつくっていかなければならないと思います。それぞれの事業
	を通して町の方向性と町民側の自分たちの方向性とをうまく合致させていって継続してい
	くということが町の発展につながっていくのではないのでしょうか。添田さんからお話があ
	りました通り、自分のところでも直面しているのは一旅館の問題ではなく地域の魅力が必
	要になってきています。町の方向性と我々の方向性により一生懸命やっていかないと事業
	の継続も無いものという危機意識も持って取り組んでいくつもりでもあります。
	これから高齢化社会を迎えて、健康な高齢者が住む町、また安心して健康に年を積み重
	ねていける地域ですとか、こういうことから「健康と温泉」、「健康と自然」などいろいろ
	と浮かんできくのではないかと思います。今、ウォーキングが見直されていたりしますが、
	石川には雑木林の里山があって、それほど手を加えなくても散歩コースがいくらかでも出来
	ると思うんですよ。このような場所はそれぞれの地域にあると思います。山橋でも中谷で
	も母畑でもどの地域にでもあるはずで。地域の人達が気軽に散歩出来る様なコースも金
	をかけずに作って健康の里づくりというようなものだって出来ると思うのです。例えば会
	津あたりは散歩するコースを作るのにもものすごいお金をかけた土木工事で作っているの
	ですけども、こちらの地形であればお金をかけずにいくらかでも出来ると思います。私のイ
	メージとしては滞在型の宿泊の中で時間消費型健康ということで、私が子どもの時代に雑

	木林の中で遊んだ記憶の中で、1kmの周回の散歩コースを作るとか、森林浴をして過ごすとか、色々なものが出来ると同時に、1泊から滞在型にすることによって旅館の中だけで食事などしていたものが2泊以上になれば周辺の食事処を利用するということのようなことが出来ると思うのです。このような地域への交流というのが生まれるのではないのでしょうか。
	このようなことが地域で継続していくには欠かせないのではないのかと考えます。そうすれば地域の商店などが付加価値や魅力作りになると思います。例えば母畑ではそば屋さんが地域的に密着しているので、地域の魅力や付加価値にはとても力になっているなと思っています。
	中期・長期の中で夢の像を描き、それに向かって着実にやっていくことしかないのだと思います。一朝一夕には出来ないと思います。熱い情熱と継続的な努力が問われてくるのではないかと考えています。
酒井委員	今、渡辺さんが仰ったように、ひとつの計画書によって、これを町民が共有する事ができれば、計画の進捗や方向性などを共有できるはずなのですが、分野別けして計画を作っていくとちゃんと進捗管理や進行の問題点などが共有できると思うのですが、今は共有できていないと思います。町の計画書とは一体何ぞやというのも中学生ぐらいではわかるようなもの、そういう計画書を全町民が手にしているということが出来れば非常に素晴らしいのではないのかと思います。今はこういう世の中ですから朝令暮改というか、基本計画であってもどんどん変えていかなければならないものだと思いますが、変えたということも判るものという形で積小為大というように小さいことを積み重ねていって目標をクリアしていくというベクトルや目的がはっきりしていないというのが成果を生まないという結果になってしまうのではないかと思います。そういえば自分も今の計画は知らないなど改めて思いました。できれば中学生ぐらいが読める町の計画書というものを全町民が共有できて、いやなものであつたらNOと言えるものもあって、このようなものを分けてというような計画書があつたら総てを共有出来るようなもの。情報を共有するということは非常に大事だと思います。
	本当のビジョンというのは危機感から生まれてくると考えています。私は豊かな町というのは商業のサイドから見ると、職種がたくさんある町というのが豊かな町なのではないかと思っています。町なかから色々な業種がだんだん少なくなっていった、スーパーやコンビニなどが取って代わっているというような状況があると思うのですが、ここが一番寂しいし、ものすごい危機感を商業の立場から感じています。
	商業の面からもまずは作るということが大事だと思います。それを共有することによってやっていかなければならないと思います。
	先程、ブランドということも話しにありましたが、ブランドを作るにはやはり人材が必要だと思うので、人材育成というのはやっていかななくてはならないだろうと思います。今、まちづくり会社では石陽塾というものを開始したのでしたのですが、16名と塾長などを含め20名くらいで始まりましたが、正に個人のビジョンとか計画をまず作って自分の職業を活性化していくうえで町に貢献していくという人材育成をやっていこうと考えております。色々難しい問題もありますが、こういう人たちからゆくゆくはブランドが出来るのではないかと考えています。

西川委員長	計画の進捗状況などは町でも出来るのですか。
瀬谷課長	第4次については総括的なものでしか評価を行うことが出来ませんでした。目標値を作って出来るだけ評価していくというのが今度の5総のひとつのねらいではあります。ベ
	ースになるのはわかりやすいということを念頭に置きたいと考えておりますので、目標を
	数値化することによってわかりやすいものにしたいと思っています。中学生にもわかりや
	すいということになると難しい部分もあるのかもしれませんが。
添田京子委員	私はまちづくりとは地域づくりだと思います。地域というとボランティアというイメージが強く、選ばれた人たちがやっているという印象が強くあります。やる人だけがやる
	という考え方だけではなく、みなさん若い人からお年寄りまでひとり一人が出来るような
	ものをやっていただいたら良いのではないかと思います。
西川委員長	人づくりというのは時間がかかるというように、一番時間が係るのは人づくりだと思う
	んですね。
添田京子委員	地域間の交流があったら、もっと色々な情報もあって何か作れるのではないかと思います。
	す。
西川委員長	今回のまちづくり委員会の単位になるのは公民館であり、公民館がひとつの単位になっ
	て地域づくり委員会が作られているわけですが、公民館が住民自治の部分を受けるだけの
	機能になっているのかどうかというのが非常に疑問に感じています。休館日もありますし、
	このような日に住民の誰かが待機しているような対応をしていかないと公民館同士の格差
	が生じてくるのではないのでしょうか。地域づくり委員会においても熱心なところと熱心で
	ないところが出てくるような気がしています。
相楽委員	今、地区公民館を維持しているのは館長一人しかいない訳です。それで週に一日か二日
	休むんです。それでパートが半日位来るんです。これから地区公民館が地区の拠点になる
	のであれば、やはり地区公民館の運営委員会あたりが自主運営出来るような体制づくりを
	整備しないと地域でもうまく対応できないと思います。各種団体の事務局が地区の公民館
	にお願いしていますが、どうしてもそうしないと地区では運営できないのでまとまってい
	かないのです。これの対応をするには館長一人ではどうしても対応できません。このあ
	たりを自主運営で公民館を運営していくのであれば、この部分の整理を地域によって作り
	上げていかないと地域の活性化にはつながっていかないと思います。
瀬谷課長	現在の公民館というのは社会教育の施設という位置付けになっています。ですから今の
	館長さん方は社会教育の施設としての事業を展開しているということになっています。
	各地区のまちづくり委員会では、地区の単位というものを公民館のエリアを想定してお
	りますが公民館の事業という位置付けではありません。地域づくりの拠点にするために、
	各地区でのまちづくり委員会での計画づくりは、地区の館長さんたちとは切り離して考え
	ています。

	今、色々と提案をしているところなのですが、地域の中で委員会を作ってそこには役場職員がサポートするという仕組みづくりをしています。このようなことを今後、どういった形にしていくのかはそれぞれの地区での課題だと思います。
	また、公民館事業という面では、公民館の建物そのものを運営していくスタッフが足りませんので、この点も課題であると思います。
野崎委員	今のお話なんですけれども、地域づくりは対応できる人というのは、団塊の世代といわれる退職した方とかの健康で特技を持っているとかが地域でもたくさん居られると思います。そういう方々を募って、今までの経験を生かして地域づくりへの参加として進めていけばいいのではないかと思います。
水野委員	地域循環型社会のイメージということでメニューが出ているのですが、ひとつひとつのメニューをシミュレーションして、障害やデメリットなどの検証をしてみたらよいのではないのでしょうか。
	二地域居住の考え方で、先日、神奈川県の方から石川町で生活したいから住宅の物件を紹介して欲しいという話がありました。空き家を探しても状態があまり良くなかったり、物件がありません。このメニューの二地域居住では、この石川町には空き家がどれくらいあるのかとか、空き家をどのように管理していくのかということをやっていないと不可能になってしまいます。このことをどのように展開していけばいいのかという部分も大事だと思います。
添田係長	二地域居住については、言葉そのものも耳慣れない方も多いと思いますが、都会と田舎に二つの居宅をもつということで二地域居住という表現を使っています。全国的には団塊の世代の退職ということがあり、このような方々をターゲットにそれぞれの地方に誘導しようということで、石川町でも作業が始まっています。石川町としましては県の二地域居住のプロジェクトに参加し、尚且つ東京にあるふるさと回帰支援センターという組織の会員にもなって、石川町のPRをしながら、ふるさと暮らしの支援をしようということで取り組んでおります。既に1名の方が埼玉から古い農家の空き家を借りて生活をはじめております。さらに来年にもひと組の予定がありまして、もうひと組も石川町にきたいということを前向きに検討していただいております。先程の水野さんのお話のようなことがありましたら、町ではある程度の空家の情報を把握しておりますので、私どものほうにご連絡をいただければと思っています。土日などでも来町された方の対応はしておりますので、その旨よろしくお願いしたいと思います。
吉田委員	先程、町長さんが仰っていたように子どもたちが自分の住んでいる町を自慢できるような教育といったことには私も良いことだなと思っています。子ども達が年々、減っていく中で、学校の統合などがあると思いますが、自分の暮らしているところよりも、石川町全体を考えて自慢できる場所について、町が一体化して一本化して楽しむことが出来るように、地域ごとに作るのではなくて、町の中心地を観光地化してみんなが集えるような場所があったら良いと思います。結局、子ども達も小学校の統合によって町の中心にあつまるとなるのでしょうから、町に一体化したものがあることによって若い人たちの定

	住に繋がるのではないのでしょうか。
町 長	先ほど深谷委員さんからお話ありましたように、若い人が結婚を希望する場合に情報を提供出来る様なシステムがあった良いなと思いますが、深谷さんもこういったことも御専門ですから積極的にお嫁さん探しをお願いしたいと思っています。交流の場づくりも必要でしょうし、結婚については人口の問題では重要なことだと思います。
	農業後継者については、農業も自由競争の世界ですから勝ち抜いていかなくてはならないものだと思います。このような意識も持たなければならぬのではないかと考えています。会社でも同じものを１００円かけて作ると２００円かけて作ったのでは絶対に商売になりません。どうすれば売れる商品になるのか、どういうものを作ればお客様に喜んでもらえるのか、ということを自主的に研究開発する必要があると思います。従来の農業の手法で何とかしてくれという世の中ではありません。今の世の中を勝ち抜いていく力をつけていかなくてはならないのではないのでしょうか。お菓子屋さんの酒井さんがあれだけ繁盛しているのは一生懸命やってきたことの積み重ねだと思います。八幡屋さんがあそこまでの業績になっているのもやはり目に見えない苦労や努力そして工夫があったからだと思うんです。私は昔の八幡屋さんも覚えていますが、現在、あれほどになったというのは今の時代に合うようなシステムを自分で考えて実行してきたからだと思います。農業に携わる方々に厳しいことを申し上げるのは恐縮ではありますが、農業でも知恵や工夫をしている人はたくさんいる訳ですから、自由競争の中で勝ち抜いていくだけの力が必要なのではないのでしょうか。また、農業後継者の方々にも集まって情報交換や勉強するというのも大切なのではないのでしょうか。以前は野菜をきれいに洗って陳列していた八百屋さんが、わざわざ野菜に泥を塗って売ることにしたら、お店が何倍にも大きくなったという例もあります。土が付いていたほうが新鮮なものを売ることができるのです。そのお店ではお客さんが自分で土を洗っていくという方法で野菜を売っています。また、お米も小さな袋で販売するという方法もありました。毎日、搗き立てのお米を販売するのです。搗き立てから暖かいままのお米を販売しています。工夫というのはそういうものだと思います。売れる商品をどうやって作るのかが大事なのではないのでしょうか。農業は難しいものですが、自然を相手にするということは楽しいことでもありますから、自分で作って自分で売ることが出来れば楽しいものになるということにも繋がるのではないのでしょうか。
	先日、国会に行って参りましたが、地域、地方の状態をわからない人が国会議員になっても地方のことはわからないのです。地方自治を理解して、真剣に取り組んでくれる人を国会に送らなくてはいけないと感じました。
	石川町の商店街については、空洞化して困ったといわれていますが、どうやれば困らないかを考えなければならぬのだと思います。考え方を変えていかなければならぬのだと思います。農業とも通じることがあると思いますが、売るための工夫を考えていくことが大事なことだと考えます。
	考え方を変える、発想を変えることが必要です。従来の考え方で世の中総てを通そうと思ってもうまく行かないと思います。人のせいにするようなことではいけないと思います。これでは健全なまちづくりにならないと考えます。町でも５総の過程で役場職員が全員関わって基本計画や地区のまちづくり計画などを作り、皆さんの期待に応えられるようにしていきたいと考えています。ただ結婚相手を見つけて欲しいということについてはちょっ

	とまだ応えづらいところがありますが、深谷さんによく相談したいと思っています。
鈴木委員	私は健康づくりに関わっています。石川町の地域包括支援センターの方々は非常に熱心な活動をしてくださっています。地区の拠点作りもしていただき非常にありがたいことだと思っています。食改さんの方々も多くの方がいらっしゃるので、是非、まちづくりに協力していただいて、色々な面からの健康づくりということを発展させていければいいなと思っています。
	石川町が全国に自慢できることのひとつには歯科ドックが挙げられると思います。これは日本で行っているところがほとんどありません。ですから、是非、宣伝していただきたいと思います。歯は高齢になっても自分の歯で食べられるということが健康の基本になりますので、是非、歯科ドックを受診される方を集めていただきたいと思います。
	石川町の医療機関は入院することは出来ないのですが、往診してくださる医療機関がたくさんあります。歯科でも往診が可能です。往診してくれる医療機関がたくさんあるというところは終の棲家として選ぶ町としては安心感に繋がるものだと考えます。このような点も宣伝していただきたいし、力を入れていただきたいと思います。それから医療人としてこれまで関わってきた人で、結婚を機に辞めてしまった方がたくさんいます。看護師さんとか衛生士だったりとか。そういう方の掘り起こしやリストアップをしておけば、医療ネットワークをつくっていつでも安心して誰かに問い合わせ出来る様なシステムとか、相談できるシステムを構築したり出来ると思いますので、このような人材の掘り起こしを町でやって欲しいと思います。そうすれば町民の方々も心強いし、安心して暮らせるという点では、ひとつの魅力になると思うので是非、人材を集めていただきたいと思います。
町 長	先日、八幡屋さんで福島県の床屋さんの方々が270人位集まったところで挨拶をさせていただきました。石川町の床屋さんも4軒くらいお出ででした。この場で、さくらが有名なところはどこですか？と聞いてみました。三春などが挙げられました。あそこは1本しかありませんよ。と申し上げました。そして説明しておきました。さくらの写真で有名な写真家の竹内さんの言葉では、全国でさくらが有名なのは奈良と長野、その次が福島県中通りの石川町。それだけ石川町のさくらは素晴らしいのです。それこそ高島平もあるでしょうが、石川町に住んだならば石川町のさくらを宣伝していただきたいと思います。それで私は床屋さんの皆さんに早く旅館を予約しないと予約が取れなくなってしまうよ、と話しました。今日、帰るときに来年の4月の18日前後に予約をしてお帰りくださいと申し上げました。後でお酒を注ぎに来られたときに往生しました。みなさんも石川町の話をするときに、是非、このようなPRも付け加えていただきたいと思います。とても関心を持ってもらえるとことと思います。どうか皆さんも石川町の良さや自慢できるものを他所から来られる方にPRしていただきたいと思っています。
水野委員	さくらについてなのですが、これからさくらをどうしていきたいのかということで、今出のさくらも老木で老朽しています。どのように維持して、後継樹をどうするのでしょうか。
瀬谷課長	保存に関しては手を入れなければならないと思っています。

[illegible]